

国際研修「漆の保存と修復」(⑤修05-07-2/5)

目 的

海外の美術館・博物館の保管する漆芸品は、乾燥した環境と保管状況の違いから塗膜の剥落や木地の割れなどの損傷を持つ作品が多い。そのため海外の日本美術品保管担当者や学芸員から漆芸品の保存と修復についての問い合わせが増加している。それらの疑問や問い合わせは、海外において日本の修復材料・技法に関する学習や作品の取り扱いに関する経験が少ないためといえる。文化財研究所は、ICCROMと共同で10カ国10人の参加者を募り国際研修会を隔年開催し、漆芸品の保存と修復についての研修を行う。

概 要

本年は過去4回行われた国際研修「漆の保存と修復」の参加者から講演者を集め、評価セミナーを行った。

研修日程 2007(平成19)年9月10日～9月14日

研修場所 東京文化財研究所、青森県(弘前市、八戸市)、岩手県(二戸市、平泉町)

研修対象 国際研修「漆の保存と修復」の受講者

研修内容

報告および講演：9月10日、11日

報告1：Suzanna SHAW, National Gallery of Victoria (Australia)

報告2：Chenkyo Tshering DORJI, Freelance, Emeritus Professor (Bhutan)

報告3：Balazs LENCZ, Hungarian National Museum (Hungary)

報告4：Francesco CIVITA, Stibbert Museum (Italy)

報告5：Mitra ETEZADI, Cultural Institute of Bonyad Museums (Iran)

報告6：Margarita KIRCHNER, Arquinfad (Spain)

報告7：Ya Hui LIU ZHOU, National Art Museum of Catalonia (Spain/Taiwan)

報告8：Somtawin Pom NILVILAI, Bureau of the Royal Household (Thailand)

報告9：Jurgen HUBER, The Wallace Collection (UK/Germany)

報告10：Julia HUTT, Victoria & Albert Museum (UK)

報告11：Brenda KENEGHAN, Victoria & Albert Museum (UK)

報告12：Melissa CARR, Private Conservator (USA)

スタディーツアー：9月12日～14日

弘前市(漆工房)、八戸市(八戸市博物館、八戸市縄文学習館)、二戸市(浄法寺町 滴生舎など)、平泉町(中尊寺)

報告書 2件

『Evaluation Seminar, 2007 -International Course on the Conservation of Japanese Lacquer-』東京文化財研究所 251p 08.3

Textbook『Japanese Lacquer -Basics-』(研修用テキスト 漆—基礎編—)東京文化財研究所 110p 08.3

研究組織

○川野邊渉、北野信彦、早川典子、加藤雅人、長瀬万里(以上、保存修復科学センター)